

化学品管理の取組について

一般社団法人日本化学工業協会
常務理事 庄野文章

1



国際的な化学品管理の流れとその対応



- 1992年 国連環境開発会議アジェンダ 21(リオ宣言)
- 2002年 持続可能な開発に関する国際サミット(WSSD)
 - ・世界的目標: 化学品による悪影響を2020年までに最小化
 - ・SAICM(国際的な化学物質管理に関する戦略的アプローチ)の策定
- 2006年 国際化学物質管理会議(ICCM) ・SAICMの採択
- 2006年 国際化学工業会協議会(ICCA)がRC世界憲章を制定
GPSを推進することをコミット

- 化学物質が、**ライフサイクル**全体を通して、安全に使われるようにする
- 化学物質の安全性は、科学的根拠に基づく**リスク評価**で確認する
- 安全性データ 及び リスク評価データは、極力**公開**する

化学品管理 法規制



欧州: REACH
日本: 改正化審法
 安衛法改正
中,韓,台等: 規制強化
米国: TSCA改正検討

化学産業界自主活動



GPS(Global Product Strategy)
Product Stewardship
に基づいた化学物質管理

産業界横断活動



中長期ビジョン策定
2015年〜リスク管理に
必要な情報伝達の導入



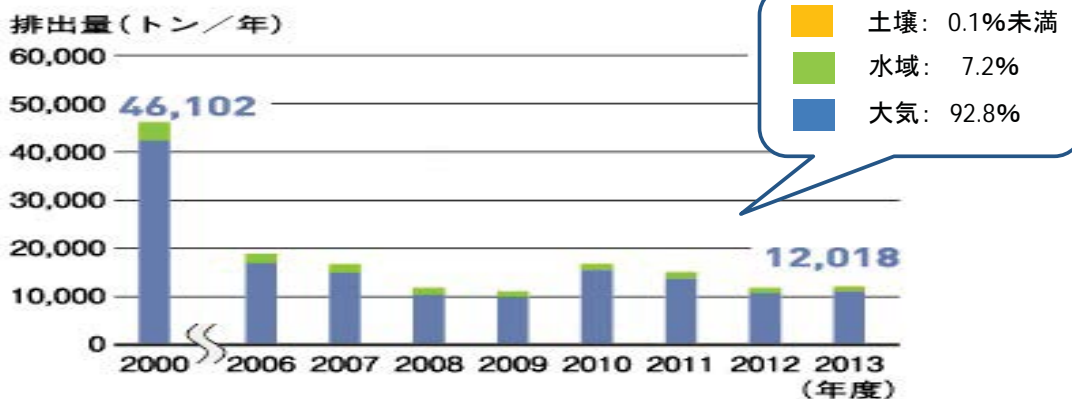
- 化学物質を扱うそれぞれの企業が、化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保活動の成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う活動を展開。



- * 2006年 国際化学工業協会協議会 (ICCA) が「RC世界憲章」を制定
- 2014年 より簡潔かつ具体的な行動戦略として改訂
- 11月25日現在 日本国内では、38社が署名済み

- 化学物質管理則促進法 (PRTR法) 指定物質排出量の推移
 - ✓ 2013年度のPRTR法指定物質の排出量は12,018トン、2000年度比で約74%削減
 - ✓ 2010年度は、法改正で指定物質の数が増えたため、一時的に排出量が増えたが、それ以降も継続的に削減

▶ PRTR法指定物質の排出量 (2013年度は日化協速報値)



日化協会会員企業におけるPRTR法指定物質の排出量推移

- ▶ 各企業が自社の化学製品のリスク評価を自主的に行い、リスクベースでの適正な管理を実施 (GPS/JIPS)
- ▶ その安全性、リスクと管理方法に関する情報を社会一般に公開
- ▶ サプライチェーン全体での化学品のリスクを最小限にすることを旨す「安全性要約書」として、顧客を含めた社会一般に公開

<GPS/JIPS 安全性要約書アップロードの推移 (2014.6現在)>



* GPS (Global Product Strategy) とは、2006年 (平成18年) の第1回国際化学物質管理会議 (ICCM1) での『化学物質管理に関する戦略的アプローチ (SAICM)』の採択を受けて、ICCA がコミットした国際的な化学品管理戦略。JIPS は、その日本版。

- ▶ 会員のGPS/JIPS 活動を支援するため、リスク評価を行うための各種情報の収集や安全性要約書の作成方法等GPS/JIPS活動をさらに強力に推進するための総合支援サイト“JCIA BIGDr”を開発し、会員向けに公開(2013.8)

<ウェブサイトイメージ>



▶ 機能概要

*BIGDr : The Base of Information Gathering, sharing & Dissemination for risk management of chemical products

機能メニュー	機能概要
① 有害性情報DB	官公庁等が公開し、国内に点在する代表的な有害性情報データベースの一括検索機能
② 安全性要約書閲覧	ICCAのホームページに掲載されている会員企業の作成した安全性要約書へのリンクを掲載
③ 安全性要約書自動作成ツール	ECETOC TRA Toolを用いたリスク評価から安全性要約書(GSS)の作成までを支援する安全性要約書自動作成ツール“GSSMaker”の提供
④ 資料集	リスク評価や安全性要約書の作成・登録等に関する日化協セミナー資料等を掲載
⑤ リンク集	有害性情報の情報源や、ばく露評価、リスク評価等に関する各種情報源へのリンクを掲載
⑥ ヘルプ	リスク評価や安全性要約書の作成・登録等に関するユーザーの質問や要望を受付



- ✓ 今後、各種ドクター機能の拡充や、要望を反映
- ✓ システムのバージョンアップを順次実施
- ✓ 2014年度内には“JCIA BIGDr”の一般公開も視野に入れ検討

◆GPS/JIPS普及推進用パンフレット制作

- ・会員企業経営層向けから制作中。
- ・見開きで自社のGPS/JIPS取組みレベルをチェック、そのレベルによってその意義・目的・内容について容易に理解を深めることが可能。
- ・12月末完成予定。



◆リスク評価支援システムBIGDrの開発・運用

- ・2013/08/30 インシヤルサイト公開
- ・323社にID/PWを付与、20~50アクセス/日
- ・2015/01一部コンテンツ一般公開へ



BIGDr

◆混合物のリスク評価法検討

- 動向調査、事例検討、GHS分類結果を用いた混合物のリスク評価法を検討
- ・2014/06 ワークショップで検討状況説明
- ・2014年度中にガイダンス提示予定

7

2014 Japan Chemical Industry Association. All rights reserved

2-3. SCRUMプロジェクト/サプライチェーンでの化学物質管理活動の推進

- サプライチェーン全体での化学物質のリスクベースの管理が適切かつ効率的に行われるための必要な共通評価手法と情報伝達の仕組の構築
- 製造から使用・廃棄までのサプライチェーン全体を通じた化学物質に関するリスク情報共有化の仕組み作りとその普及に向けた活動の展開

<サプライチェーンでのリスク管理のあり方(情報伝達)>



* SCRUMプロジェクト(Project of Supply chain Chemical Risk management and Useful Mechanism discussion) : “製品中の化学物質管理”の観点から、リスク情報の業界横断的な共有化を図るべく、アーティクルマネジメント推進協議会(JAMP)と協働で立ち上げたプロジェクト

2014 Japan Chemical Industry Association. All rights reserved

1. LRIとは

化学物質が人の健康や環境に及ぼす影響に関する研究を長期的に支援する国際的な取組み(安心・安全につながる研究)

▶ 研究成果を日化協の会員各社で共有化

LRI : Long-range Research Initiative

2. 最近の取組み内容

1. 日米欧の化学業界が連携した研究活動

2014/5より
研究企画機能を強化



2. LRI研究報告会

(2014/8/29開催 1回/年)

3. LRI関連資料配布

グローバル研究戦略



2013年年次報告書



LRIは、社会のニーズにあった研究を支援しています。

化学物質管理に関する国際的な課題や動向、新しい化学物質の研究開発等、私たちを取り巻く環境は大きく動いています。LRIでは、「社会のニーズに応える」という観点で安心・安全につながる研究を支援し、課題解決に取り組んでいます。



取組概要

9

2014 Japan Chemical Industry Association. All rights reserved

3-1. LRIにおける委託研究の採択状況

【指定課題】

分野	第1期 2012.11 - 2013.10	⇒	第2期 2013.11 - 2015.2
1. 新規リスク評価手法の開発と評価	3	⇒	4
2. ナノマテリアルを含む、新規化学物質の安全性評価	1	⇒	2
3. 小児、高齢者、遺伝子疾患などにおける化学物質の影響に関する研究		⇒	1
4. 生態・環境への影響評価	1	⇒	1
5. その他、緊急対応が必要とされる課題		⇒	
計	5	⇒	8



【公募課題】

分野	第1期 2012.11 - 2013.10	⇒	第2期 2013.11 - 2015.2
1. 新規リスク評価手法の開発と評価	6	⇒	7
2. ナノマテリアルを含む、新規化学物質の安全性評価		⇒	0
3. 小児、高齢者、遺伝子疾患などにおける化学物質の影響に関する研究	1	⇒	2
4. 生態・環境への影響評価	2	⇒	2
5. その他、緊急対応が必要とされる課題		⇒	1
計	9	⇒	12



10

2014 Japan Chemical Industry Association. All rights reserved